

令和2年度 水産研究課試験研究課題一覧

No	品目	研究課題名	研究内容	研究期間	担当
1	スジアオノリ	気候変動打ち克つスジアオノリ安定生産技術の開発	猛暑、集中豪雨など気候変動による環境変化に対応するため、高水温、低塩分に強い品種を選抜する。また、天然採苗の安定化技術を開発することにより安定生産を図る。	R1～3	環境増養殖
2	ワカメ	色調に優れたワカメ新品種開発	栄養塩不足による「色落ち被害」に対応するため、色落ちに強い品種を選抜することにより安定生産、品質向上を図る。	R1～3	環境増養殖
3	ワカメ、ヒジキ	資源管理型漁業推進事業	天然わかめ、ひじき等の十分利用の進んでいない天然海藻資源については有効活用を促進することにより、漁業者の新たな収入源を創出する。	H25～	環境増養殖 海洋生産技術
4	アワビ	ワカメ養殖を活用したアワビ資源増大事業	高水温化により、アワビの餌となる海藻資源が減少したため、地元と連携して設定した保護区においてワカメ養殖を行うことによりアワビに餌料を供給する手法を開発する。	R1～3	海洋生産技術
5	養殖藻類（ワカメ、アオノリ類、アマノリ）	増養殖技術研究	養殖漁業等の振興を図るため、海藻類の増養殖技術研究及び養殖漁場環境の調査を行う。	H12～	環境増養殖 海洋生産技術
6	キジハタ	魚づくり革命・もうかる養殖魚創出事業	養殖業を取り巻く情勢が変化し続ける中、今後の気候変動等を見据えた新たな養殖魚の開発・導入に取り組み、産地間競争に勝ち抜くことができる「徳島ブランド魚」を創出する。	R1～R3	海洋生産技術
7	低利用資源	消費者の健康志向に応える六次産業化を推進する加工品開発支援	「健康志向」をキーワードに機能性ペプチド等に着眼し、低利用資源を原料とする加工品開発をおこなう。	R2～4	海洋生産技術
8		資源管理に必要な情報提供事業	新漁業管理体制下での適切な操業支援、調査体制の整備を図るため、沿岸域における漁海況情報の収集・分析・提供を行うとともに、地域レベルでの情報の提供を行う。	H9～	海洋生産技術
9		資源・漁獲情報ネットワーク構築事業	資源管理対象魚種の拡大に対応するため、水揚げ情報収集網を強化するとともに、漁獲努力量算出や海況把握をおこなう。	R2	海洋生産技術 環境増養殖
10		漁海況予測システム構築事業	ディープラーニングを応用し、県が保有する観測データや水揚げデータから直近の漁海況を予測するシステムを構築する。	R2～	
11		病害対策研究	魚介類の感染症等による病害の原因究明、診断及び予防・治療法を確立する。	H12～	海洋生産技術
12		遺伝子同定手法とスクリーニング法の導入による効率的な貝毒モニタリング体制の確立	新たな貝毒検査手法の有効性を検証し、より効率的な貝毒モニタリング体制を確立する	R2～4	環境増養殖
13		漁場環境保全対策調査研究	養殖漁場における水質及び底質の推移を把握し、その結果を基に適正な漁場利用を促進する。	S54～	環境増養殖
14		赤潮対策技術開発試験費	播磨灘における赤潮被害を防止するため、近隣県と共同で有害プランクトンの出現動向等を調査する。	H11～	環境増養殖
15		漁場環境監視等強化対策事業	赤潮、貝毒の被害防止対策を実施する。	S54～	環境増養殖
16		水産基盤整備調査事業	水産基盤整備事業による藻場、増殖礁の事前・事後調査を実施する。	継続	海洋生産技術
17	養殖ワカメ、アマノリ	栄養塩からみた漁場生産力回復手法の開発	紀伊水道西部及び周辺海域のノリ・ワカメ養殖場における海水中の栄養塩濃度等の現場観測を行うとともに、施肥剤による生産力回復手法を開発する。	H30～R3	環境増養殖

令和2年度 水産研究課試験研究課題一覧

No	品目	研究課題名	研究内容	研究期間	担当
18	藻場	ドローン空撮画像解析高度化事業	藻場の種別・季節的分布，被度の情報収集を目的に，自動操縦システムの導入や色域自動詮索システムの構築により，海用ドローンを用いた空撮画像解析の効率化を図る。	R2～R4	海洋生産技術
19	IoT・AI	IoT・AIを活用した「リアルタイム水質情報配信・予測ネットワーク」の構築	IoTを活用し，水温・塩分のデータをリアルタイムで漁業者に情報提供しているが，測定ポイントを増やすことにより，より効果的・効率的な操業に資する。また，気候変動による急激な水温変動に対応するため，AIを活用し水温の予測技術を開発する。	R1～2	環境増養殖 海洋生産技術
20	ワカメ	ワカメ種苗生産の安定化技術開発「フリー配偶体の活用とサポート技術によるワカメ養殖のレジリエンス強化と生産性革命」	気候変動にともなう高水温化，集中豪雨により，ワカメ養殖の種苗生産の不調，生育不良，食害が発生し，生産量が減少している。このため，フリー配偶体を活用した種苗生産技術，種網の保存技術，食害対策技術を開発し，生産量の安定，増産を図る。	H30～R2	海洋生産技術 環境増養殖
21	ウニ	気候変動から漁場を守る！農林水産物の未利用部位を活用した除去ウニ増殖モデルの開発	藻場の食害対策として除去されたウニは身入りが悪く，このままでは商品化できない。そこで，農林水産物の未利用部位を餌にしてウニを肥育し，未利用部位処理コスト削減と新たな養殖業の創出を目指す。	R2～4	海洋生産技術
22	藻場，藻類養殖	ブルーカーボンの評価手法及び効率的藻場形成・拡大技術の開発	藻場タイプ別のブルーカーボン貯留量を算定する評価モデルを開発し，藻場の炭素貯留量を評価するとともに，二酸化炭素吸収と生態系保全機能を両立可能な藻場の形成・拡大技術を開発する。	R2～R6	海洋生産技術 環境増養殖
23	浮魚，底魚類	漁業資源対策研究	小型底びき網，延縄，パッチ網等の機船漁業で漁獲される浮魚と底魚について，主要漁協の漁獲統計調査や漁獲実態調査により，漁業資源の動態をモニタリングする。	H13～	海洋生産技術
24	アユ	河川生産力有効利用調査研究	吉野川におけるアユの資源量調査の実施により，河川資源の有効利用に資する。	H2～	環境増養殖
25	イワシ類，アジ類，サバ類等，計15種	水産資源調査・評価推進委託事業	ABC（生物学的許容漁獲量）の決定と対象魚類の資源状態の把握を目的として，県内主要漁協における漁獲量やそのサイズを調査する。加えて，海洋観測を実施して卵稚仔を採集するとともに水温，塩分等の情報を得る。	H10～	海洋生産技術
26	浮魚，底魚類	「資源回復計画推進事業」主要漁業種に関する調査研究	県内の主要な漁業種類の操業実態と重要魚種の資源動向を把握して自主的な資源管理の取り組みについて効果・影響等を解析する。	H17～	海洋生産技術
27		漁獲管理情報処理システム整備事業	漁獲情報を収集するためのシステム維持管理	継続	海洋生産技術
28		公共用水域水質調査	水質汚濁防止法に基づき，海部沿岸海域の水質を調査し汚濁状況を周年監視する。	H27～	海洋生産技術
29		魚類防疫体制整備事業	魚病の発生・伝播の防止，被害の軽減を図るための検査の実施，魚病発生時の防疫対策等をおこなう。また，養殖生産物の安全確保のため，医薬品の適正使用指導，医薬品の残留検査を実施する。	継続	海洋生産技術
30		鳴門わかめブランド力強化事業_ワカメ未利用部有効活用試験	わかめ養殖現場で発生するメカブ等の未利用部（残渣）を試験的にアワビ等磯根資源の餌として供給，モニタリングし，当該残渣が廃棄物ではなく有価物として機能することを証明する。	R1～2	海洋生産技術
31	カワバタモロコ	カワバタモロコ種苗生産試験	絶滅危惧種であるコイ科の淡水魚・カワバタモロコの保護及び増殖を目的とした種苗生産を実施する。	H19～	環境増養殖